

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 レオパレス21			
事業所名	あずみ苑津久井浜			
所在地	(239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとゆったりと生活して頂けるよう、1人々の生活パターンを大切にしています。また、共同作業を通し、入居者様同士の信頼関係が築けるよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年10月28日	評価機関 評価決定日	平成26年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は京急線津久井浜駅と三浦海岸駅の間地点にあり、津久井浜駅から徒歩12分の所にある。海岸にも近く、線路の高架をくぐれば小高い丘に出て、晴れた日には富士山が遠くに望める。法人は住宅関連会社であるがシルバー事業部ではグループホームや小規模多機能型居宅介護、有料老人ホームなど多彩に展開している。</p> <p>【理念に基づく支援の実践】 開所当時作った理念「ゆっくりと、ゆったりと」を実践し、自宅のようなくつろげるホームをめざしている。利用者も重度になっても変わらずにスタッフの声掛けに明るく対応している。職員は自立への支援として待つ介護に徹して、利用者は自立度に応じて役割を持って生活している。職員の入れ替わりが少なく、明るく家庭的な雰囲気が漂っている。</p> <p>【恵まれた自然環境】 海の近くの立地を生かし外出行事を増やしている。冬でも比較的暖かく、希望があれば1日に何度も散歩に出かけている。みかん狩りやイチゴ狩りなど観光農園にも近く、利用者の楽しみになっている。周辺に観光地が多く、利用者家族と一緒に外出計画を立てている。名物の大根やスイカ、庭のゆずや菖蒲などを差し入れてくれる近隣の方もいる。毎年利用者や家族が楽しみにしている三浦海岸の花火大会も事業所の2階から観賞できる恵まれた環境にある。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	あずみ苑津久井浜
ユニット名	1階 れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆっくりとゆったりと」生活して頂けるよう、個性を大切に支援している。	事業所開設当時の職員で話し合って理念を作成した。地域の中で自然と触れ合い、「ゆっくりと、ゆったりと」暮らせるように支援している。新人研修や折に触れて現場で話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入し、町内祭礼参加や資源ごみ回収の協力、町内散歩での地域の方とのふれあいなどを通し、交流している。	町内会に加入している。地域の夏祭りでは玄関先に御輿が来る。地域の2つの中学校の「福祉体験学習」を受け入れている。クリスマスには近くの幼稚園児の来訪がある。定期的にネイル、アニマルセラピーのボランティアを受け入れているほか、イベント時には民謡や楽器ボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者にも気軽に声をかけていただくよう、挨拶など此方から声をかけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況報告や評価の報告を行い、意見を頂いている。行事などや勉強会など希望により実施している。	2か月に1度開催している。年に1度横須賀市の職員が出席している。利用者や利用者家族も出席している。内容は、事業の報告などである。	地域包括支援センター職員や町内会役員等の出席を依頼し、より充実した運営推進会議の開催を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは必要時、空き情報交換など連絡をとり入居者に関する相談を行っている。年1回、事業者会議に参加していただいている。	横須賀市にメールで空き情報などを定期的に報告している。研修案内がメールで来る。窓口に行くときは担当職員に挨拶をしている。横須賀市グループホーム事業所連絡協議会ブロック会議主催の合同研修に参加しており、連携・協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業者の行う研修の中にも身体拘束について学ぶ。玄関施錠などは開所以来行わず、言葉による拘束にも注意している。	法人の研修で毎年身体拘束について学んでいる。言葉による拘束は特に注意している。施錠は夜間のみで日中は開錠している。自宅に帰ってしまった利用者がいたので、1Fユニットドアに鈴をつけることになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加をし、内部研修で知識を深めている、日常生活の中で、言葉の暴力が無い様、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人をされている方に講師をお願いし、研修会を実施した。必要時にご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際にも十分内容を理解して頂き契約している又契約を解除する際にも、内容を十分に説明し理解して頂ける様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見を反映できるよう受付に記入用紙と意見箱を設置している。面会時など話しかけ意見を伺っている。	家族等の意見は面会時に聞くほか、意見箱を玄関に設置し意見を聞きやすい環境を整えている。法人でも利用者家族アンケートを再開し、結果の集計を行っている。外出の機会を増やしてという要望があったので、今年は近隣の観光施設を利用した外出イベントを多数企画し実行した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロアー会議や全体会議をあまり開催出来ていないが、管理者も介護業務にはいる機会が多く意見聞いたりや考えを共有でている。	毎月全体会議やフロア会議を行っている。個人面談を行っているほか、日常業務時間内に話を聞く機会が多い。申し送りノートで情報の共有を図っている。業務の簡素化や購入物品の要望が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者が適切に行っている。解からないことは共に学んでいけるよう、質問できる、教えあえる環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の事業者独自の介護基礎研修が義務づけられている。パソコンを使用した勉強も定期的に義務づけられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区同業者と職員合同研修を開催し職員の交流と勉強に役立っている。地域グループホームとの合同研修に参加し、他所を知る機会にも成っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に接する機会を多く持つことや、集団での様子を観察し、不安原因がどこにあるか考えていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時で相談や雑談の中で御家族の気持ちを汲み取っている。又電話でも対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が最終的に特養を希望されている場合など、情報を提供している。ご家族と相談し在宅医療を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自己にてやって頂く、職員も一緒にやるなど「介護する人、される人」と一方的な関係にならないよう、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と話し合い、家族の立場からも出来る支援を行って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活や仕事に関係してきた方達の面会や、自宅、墓参りなどの外出を家族と協力し行っている。	利用者が元住んでいた家や墓参りに一緒に行っている。近所の人や友人が面会に来た折は、居室で湯茶のもてなしを行う。海岸に車で行ったり、初詣には近隣の神社に行く。近隣の方から三浦特産の「おろぬき大根」をいただくことがあり、利用者共に昔話に花が咲いた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を与えないよう家族的な雰囲気づくりと共同作業を通しお互いが理解しあえる場を設けている。利用者同士の認知症理解が難しいときがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人希望、意向等を汲み取りかなえる方向で努力している。	入浴時や夜間など職員とマンツーマンの時に思いを話してくれる利用者が多い。職員間で共有し、叶えられるように取り組んでいる。利用者家族に思いを伝えて叶えてもらうことも多い。自ら訴えが困難な利用者は、動作や表情から察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と共に、家族や本人の会話や行動から、それまでの生活習慣を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の身体状況の変化等を全ての職員が注意しており、その状態やサインを記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアーミーティング時に問題点やケアプランの見直しなど行っており、報告形式で毎月、状況をお手紙している。	初回アセスメントを基に計画書を作成している。医療情報は受診時の報告書を読み込み、カンファレンスやサービス担当者会議で職員の意見を聞いている。家族には来所の折に意見を聞いている。毎月モニタリングを行い「入居者生活介護サービス実施状況報告書」としてコピーを家族に送付している。定期的な見直しの他、随時見直しをしている。	介護計画書の内容を職員が現場のケアに反映できるような工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し保存している。必要時、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの為の訪問マッサージや、在宅医療の取入れを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会会合で、入居者の状況など伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先のクリニックにより定期往診を実施している。希望により入所前からのかかりつけ医への通院も支援している。	内科の往診医が選べるようになっている。今までのかかりつけ医が往診してくれることもある。精神科や歯科、皮膚科の往診もある。それぞれの医師から診断結果の書類が発行され、コピーを家族に送っている。専門医の受診に職員が付き添うが、症状の重い時などは家族の対応をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	重度の方や健康状態に不安のある方は、ご家族と相談し在宅医療を取り入れて、身体状況など、報告し指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、職員が付き添い、医師看護師と情報を伝え居る。地域医療連携室ソーシャルワーカーと情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望された時は、ご家族、在宅医とカンファレンスを開き、家族の意見を尊重し支援に取り組んでいる。	入居契約時に「急変時におけるの確認書」を説明し同意を得ている。ホーム内での看取りを望まないご家族には、特別養護老人ホームの申し込みを勧める場合もある。医師からターミナルと告知を受けた場合は3者でカンファレンスを行い、家族の希望を尊重して看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のスキルにあった対応ができるよう日常業務の中で、あわてず冷静に判断出来るよう指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程度の防災訓練の実施を行っている。又消防署より、水消火器をかり、常時誰でも使えるようにしている。津波想定避難訓練や避難路の確認。	年に2回の防災訓練と9月に行う市の津波想定避難訓練を行っている。日ごろから津波の際に逃げられるよう事業所の裏の丘に散歩に行っている。避難時の介助方法が一目でわかるよう色分けした見取り図を廊下に掲示している。法人から送られてくる3日分相当の備蓄が外の倉庫と中の倉庫に分けて備蓄されている。	近隣住民との協力関係を構築し、いざという時の備えを強化されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の主張に傾聴し対応している。個人情報管理なども法人から研修を受けている。	法人で毎年接遇や個人情報管理の研修を受ける。利用者家族の生活歴を知ることコミュニケーションに役立てている。プライドを傷つけない言葉かけや、より分かりやすい言葉かけを日ごろから心掛けている。利用者の名前が入った書類は日ごろから出し放しにしないことや鍵のついた書庫に必ず入れることを法人の方針として徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が思うように出来ない方には、答えが引き出せるように話かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った事柄を提供する事はありますが、理念の「ゆっくりとゆったりと」マイペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自己決定して頂くが、職員がアドバイスをすることも。髭剃りは自己、介助とも毎朝行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	在宅での雰囲気を大事に、共に準備、片付けを行っている。希望を取り入れた座席にしている。	利用者は下膳やできることを手伝っている。食材は業者からメニューと共に届く。法人の栄養士が月に2回巡回し点検している。職員は会話しながら利用者と共に同じ食事をとっている。職員には食費の補助がある。食事の開始時間は利用者によって変えているが、終わりの時間が揃うように配膳を工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中は利用者と同席し、様子観察を行い、食事量については摂取状況表を記入している。食事形態も考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。口腔内観察を行い、自力で行えない人に関しては介助を行なっている。歯周病の方は定期的な歯科訪問でケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の記入などにより排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。全介助でも立位が可能な方はトイレ誘導している。	介助用トイレ、自立用トイレなど、トイレは計3か所あり、それぞれに使い分けて自立の支援に努めている。チェック表でそれぞれの利用者の排泄パターンをつかみ、早めの声掛けを行っている。介助があれば立位がとれる利用者には、職員2人で対応し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量調節や乳製品を取り入れたり朝、テレビ体操など軽い運動を促している。ご家族や医師の意向で下剤を使用する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、利用者様の好きな時間に入浴できるよう対応している。	週に2回以上を原則とし、毎日入りたい利用者にも利用してもらうよう心掛けている。入浴したくない利用者には声掛けやタイミングを変えてアプローチしている。無理には入浴せず日をずらすこともある。浴室内に暖房があり、シャワーの際も体が冷えないよう工夫している。ゆず湯やしょうぶ湯などを利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活習慣に配慮し、自己のペースにあわせている。就寝介助を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬の確認は常に2～3人で確認し、誤薬の無いように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人で楽しんでいる時は見守り、皆で楽しめる時もあり、その場の雰囲気大切にしている。出来ること、やりたい役割は任せている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との個人的な外出は多い。日常は散歩が中心になっている。車椅子の方も、散歩やドライブなど行っている。	近くの神社や幼稚園、海など毎日のように散歩に出かけている。車いすの方も車で海岸に行き一緒に散歩している。希望があれば職員と共に車で買い物に行くこともある。外出レクリエーションとしてイチゴ狩りやお花見、回転寿司や水族館などにご家族を誘って行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は買い物や理容代など自己にて支払いしていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたりかかって着た時の取り次ぎなど、ご本人の希望にそう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るように心がけている。片付け過ぎず散らかり過ぎず、出来るだけ生活観が出るように心がけている。入居者様に合った空間作りを心がけている。	毎年専門業者が床を磨くなど、掃除やメンテナンスに気を使っている。居間は、窓が大きく明るい。テーブルの配置を時々に変えて、変化をつけている。1階のトイレは自立支援のため男女別となっている。風呂場には暖簾をかけて入りやすいよう工夫をしている。季節の飾り物を工夫し楽しんでい	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテレビの前や玄関ホールに椅子を置きには常に利用者様が休めるように配慮している。入居時、個室にも椅子の持ち込みをお願いしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、以前自宅ど使用していた物を持ってきて頂き、利用者様が居心地欲く過ごせる様な空間作りを提案している。その趣旨に協力頂けない時もある。	各居室は木のネームプレートに名前を入れ目印にしている。室内にはテレビやベッド、テーブルやタンス、仏壇やソファなど使い慣れた品を持ち込んでいる。ぬいぐるみや写真などを配置し、居心地のよい空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が出来る方は階段を使用頂く、玄関にはベンチを置き靴を自己にて脱ぎ着して頂くなど工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 あすみ荘 津久井浜

作成日 平成 26年 12月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の町内会の役員や地域包括支援センターの職員が出席出来ていない	より充実した運営推進会議の開催を行う	運営推進会議開催時に連絡し出席を依頼する。	6ヶ月
2	26	介護計画書の内容を職員が現場のケアに反映出来ていない	介護計画書の内容を職員が現場のケアに反映出来ている。	担当職員だけでなく全員が介護計画書の内容をしっかりと把握出来る様にし記録する。	1年
3	35	災害対策について近隣住民との協力関係を築く	いざという時に協力を得られる様、防災訓練等の協力体制を築く。	町内の防災訓練や避難訓練に参加し、協力をお願いする。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。